
日本人間関係学会ニュース 第 87 号 発行日:2016.6.17

News No.87 Japan Association of Human Relations June 17, 2016

発行：日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: nagano@klc.ac.jp 永野典詞研究室
事務局：〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641 東京理科大学理工学部教養科川村(幸)研究室
FAX:04-7122-1560 E-mail:jahrjimukyoku@gmail.com

[内容] ☆大会委員長挨拶 ☆人間関係学探訪 ☆関東地区会報告 ☆熊本地震報告 ☆カウンセリング講座 ☆事務局便り

《大会委員長挨拶》

日本人間関係学会第 24 回全国大会に向けて

—関西福祉大学(兵庫県赤穂市)で 11/19~20(土・日)開催—

第 24 回大会委員長 谷川 和 昭
(関西福祉大学准教授)



日本人間関係学会第 24 回全国大会を兵庫県は塩のまちとして知られる赤穂市、関西福祉大学を会場に開催いたします。関西福祉大学のある赤穂といえば、多くの方が赤穂義士、忠臣蔵を思い浮かべるようですが、私はこの大会を機に、「人間関係力」を思い浮かべていただけるような意気込みで準備を進めていきたいと考えております。

実は、今大会のテーマについては熟考の末、「未来を磨く人間関係力の再生へ」としました。「人間関係力」は、本学会が 2003 年 3 月に開催した「人間関係学講座」において、前会長の佐藤啓子先生（文教大学名誉教授、本学会顧問）がわが国で初めて使用した用語です。しかしながら、「人間関係力」を大会のテーマに使用したのは、3.11 東日本大震災を踏まえて 5 年前に開催された第 19 回大会「今求められる人間関係力—絆—」（大会長 仲田勝美）のただ 1 度切りでした。その後、その再生が求められる、もう一度考えて行く必要があるのではないかと、現理事長である小山 望先生（埼玉学園大学大学院教授）と私は昨秋対談し、これを使うことに決めました。

そこで、プログラム初日には、僭越ながら大会長講演で趣旨説明を行い、基調講演には、京都看護大学教授の井上深幸先生をお招きして、コミュニティ実践からの人間関係の構築についてレクチャーいただきます。そして、今大会の目玉の 1 つですが、参加者に何か役に立つスキルを身につけお土産にさせていただこうと 5 つの「参加型体験ワークショップ」を開きます。講師陣には小山先生をはじめ、役員の方で多彩な分科会を設けています。分科会は A 心理、B 福祉・介護・看護、C 保育・教育、D 人権、E 生徒指導で構成され、参加申込書では事前のご選択ご記入をいただくこととなりますが、ご協力ご参加のほどをよろしく願いいたします。また、2 日目の午前には研究発表、実践発表、同日午後には企画シンポジウム、企画ラウンドテーブル、そして大会招待フォーラム「地域で暮らし、地域で働く障がい者」と題して当事者 5 名による発表も予定しています。

最後になりますが、赤穂は渋滞などほとんどなく、静穏なところも魅力的なまちです。至らない点も多くあるかと思いますが、当日までさらに準備を図ります。皆さまとお会いできますことを心から祈念申し上げます。

人間関係学探訪シリーズ③

日本人間関係学会は教育・医療・心理・福祉など研究者だけの集まりでなく、人間関係に関心のある企業人、学生、市民など多種多様な会員が集まっています。そうした会員のお一人おひとりにスポットを当てて、Q&A形式で、その実践やお人柄、人間関係への想いを語っていただき、人間関係学の探究に何らかの示唆を得ることが本シリーズの意図・ねらいです。シリーズ第3回では、スーパービジョン研究会を主宰されている三好明夫先生に語っていただきました。

三好 明夫 氏

京都ノートルダム女子大学教授。博士(社会福祉学)、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、人間関係士。主な研究領域は「高齢者福祉施設の介護職員の介護サービスの質の向上について」、「高齢者福祉施設の第三者評価」、「外部評価の必要について」、「高齢者福祉施設および居宅サービス事業所の苦情処理システムについて」など。



写真中央の方が三好氏。一年生歓迎のフレッシュマンセミナーでのゼミでの手作りケーキづくりが終わった場面で真ん中にあるのがそのケーキです。

永野（広報委員会）：こんにちは。三好明夫先生。お目にかかるのは昨年11月の全国大会以来となります。大会のシンポジウムでもお世話になりました。おかげで良い大会とさせていただきました。

三好：大好きな街である熊本を再訪することができ、大会実行委員の皆様の手厚い対応で素晴らしい大会になったこと、とても感謝しております。また、大会企画シンポジウム「ソーシャル・インクルージョン（共生社会）に向けて

専門職の役割-承認し受容する社会を作るため-」ではシンポジストとして登壇させていただきましたが、多くの熊本市民の方々と交流できたことをとてもありがたく思っています。

永野：ありがとうございます。熊本は今、大変な時ですが、三好先生からも大好きな街と言われたように復興していきたいです。さて、三好先生と言えば、ネクタイをされないことで有名です。そのお心はなんでしょうか？

三好：私は教員としてスタートしたのは1995年なのですが、それから2006年まではネクタイにワイシャツのリーマンの恰好でした。ところが、どこに行くにも何をすることもワイシャツにネクタイでしたから、どちらもどんどん増えてしまってネクタイ、ワイシャツ貧乏ではないのですが（笑）。そのころからレクリエーションの講座を担当するなどラフな動きやすい恰好が多くなりまして、こりゃあ楽だということで今になりました。でもスーツも着るんですよ。入学式と卒業式に（笑）。あと、この学会大会では出来るだけネクタイ姿になろうと努めていますけど（笑）。

永野：なるほど（笑）。納得です。では、ご経歴についてお教えてください。

三好：教員になる前ですが、私は愛媛県の出身なのですが、地元松山の特別養護老人ホームの生活指導員をしていました。系列の老人病院も含めると約10年。でも、当時は生活を指導するってことがどうにも理解できなくて、間違ってもお年寄りの生活を指導することなんてあってはならないと「生活指導員って何者なのか」って福祉系雑誌に問題提起の投稿をしたこともあります。ソーシャルワーカーはオーマイティワーカーだぞ、なんて福祉の専門家の先生が聞いたら叱られそうですが、私はソーシャルワークマインドや倫理観は必要だと思っていますが、生活を守り支援する場面でソーシャルワーカーとして関与できることはたくさんあると思うんです。それをソーシャルワーカーは「相談を聴いてアドバイスするだけです」ってどうなのかなって思うんです。言われた側はとても困ってしまうのではないかと。

永野：先生のおっしゃるとおりだと思います。私も重度障害者施設で17年間指導員を経験していますが、人間の生活を誰がどのように指導するのか、とても違和感を持っていました。

私が他人から生活を指導されることは、ちょっと勘弁ですものね。では、次に先生のご趣味は何ですか。

三好：「ワンコ」と「おさかな」です。ワンコは数年前まで一度に4匹のトイプードルがいました。トレーニングしてハンドラーとともにデイサービスや病院に出かけて高齢者の方や患者さんに抱っこしてもらったりしていました。ドッグセラピー的な関与ですね。笑顔の少ない方が笑顔になってくださったり、次の訪問日を尋ねてくださったり、癒しの効果はあると思っています。おさかなは釣ったり食べたりではありません（笑）。ドッグセラピーとも似ていますが、最近はアクアセラピーとも言われるもので、水槽で熱帯魚や金魚などを飼い、その動きや餌を食べる動作に癒されるというものです。ワンコと違ってアクアセラピーは水槽があれば可能です。気にしててください。クリニックとか喫茶店とか水槽があっておさかながのんびり泳いでいます。

永野：そうですか。私も12歳になる老犬のラブラドルを飼っています。自分の身体の管理で運動にもなり、癒やしにもなりますよね。また、アクアセラピーですか詳しくは知りませんが、興味が引かれますね。では、学会に入会してどのくらいになりますか。

三好：たしか2000年だったと思います。16年が経過したのですね。早いものです。

永野：学会に入られたきっかけは。

三好：2000年当時は東京の女子大に勤務していたのですが、すでに入会しておられたその先生から紹介されました。入会を即決したのは入会資格でしたね「人間であること」ってシビレルじゃないですか。学歴も資格も免許も経歴も関係ない、人間であればぜひどうぞってことですから躊躇しなかったですね。人間関係って身近にいっぱいあるのですが、この人間関係で悩んだり苦しんだりしている人がいるわけです。人が生きるうえで人間関係はとても重要だと思ったので、当時は高齢者の方々と繋がる人間関係について考えていきたいと思っていました。エイジング部会は入会して創設させていただきました。

永野：確かにこの入会資格は素晴らしいですね。人間関係は家庭、仕事、学校、地域、その他様々なところで必要なものですよ。また、エイジ

ング部会を創設されてもいらっしゃいますよね。その他、先生が主宰されているスーパービジョン研究会について、少しお話をいただけませんか。

三好：研修委員会の活動の一環として位置づけているスーパービジョン研究会は月例で実施していますが、関西地区会とも連携しながら進めています。小さな研究会ですが、職場、職域、職種を越えて集い、語り合いたいと思っています。進行内容については、まず参加者の自己紹介と近況報告(直近1カ月程度)をしていただきます。その後、テーマに沿って話題提供者による発表をしていただきます。終わりますと発表を受けて参加者間でのディスカッションをして振り返ったり、話題提供者に質問をしたりします。最後はテーマ内容についての総括を行うというものです。できるかぎり現場実践者の方々に参加していただきたいと考えています。この研究会で繋がり結ぶ糸もまた人間関係の取り持つものだと思います。

永野：学会では韓国福祉医療視察研修も企画なされています。その辺りについてはいかがでしょうか。

三好：視察研修は人間関係士資格の科目読み替えにもしていただいています。例えば韓国は高齢化のスピードが日本よりも早いといわれていますし、日本をモデルにした介護保険制度もあります。欧米の福祉に学ぶということもわかりますが、私は近隣の韓国からも福祉事情などで学べるのではないかと考えていますし、福祉施設や大学を訪問して韓国の方々とお話や意見交換などができると私は日韓の人間関係づくりにもつながっていくと考えています。調査研究よりもまず韓国の歴史を知り、文化を知り、人を知り、物を知る、そのためには直接訪問して互いがしっかりと向き合っていくことが大事だと思っています。食べ物も美味しいし日本より安いし、何より渡航費用が欧米よりもはるかに安価だし、飛行機嫌いの方にも短時間移動はおススメです。

永野：韓国福祉医療視察研修はまだ参加できていませんが、ぜひ、参加させていただきたい企画ですね。ところで、本学会には人間関係士という資格があり、7つの人間関係力を打ち出しています。この7つを大事になさっている順番に並び替えるとどうなりますか。

三好：はい、人間関係力には7つの力があります。(媒介力)(創造・発展力)(回復・調整・再生力)(連携・協働力)(全体認識・洞察力)(他者受容・共感力)(自己受容力)です。人間関係士とは「人間関係にかかわる仕事や活動をしている人々が、自信を持って行動することが出来るように、本学会が認定する資格」となっていますが、関わっていく人間関係の領域によって違っていくと思います。私なら(回復・調整・再生力)(連携・協働力)(他者受容・共感力)(自己受容力)が上位にくると思いますが、忘れてはならないのは7つの力のいずれかが欠けてしまっただけということなのです。

永野：並び替えてみてのご感想をお願いします。

三好：並び替えて順番をつけるということは考えていませんでしたが、こうして上位を見てみると対人援助技術者つまりソーシャルワーカーとして機能していく上では不可欠な項目が上位にきたように思います。特に(他者受容・共感力)(自己受容力)などはソーシャルワーカー自身の心を呼び覚まし、揺り動かす重要な要素だと思います。

永野：とても共感できます。人間関係のスタートは他者を共感し受容することですよね。これなくして、良好な人間関係を築くことは難しいことですね。では、最後にもう1つだけ。人間関係、こうすれば良くなりますよという何か提言なり提案はございませんか。

三好：皆さん、人間関係士資格を受講して豊かな人間関係を取り持つ人間関係士になりましょう(笑)。人間関係士資格についても受講履修システムの見直しや知識や技術の習得に向けて重要となるハンドブックづくりなどに着手しています。また、明るく楽しく生きるのも不安や悩み生きるのも人間関係が大きく左右しているのではないかと思います。生きていく上での難関や課題を無くすることはできないでしょう。ですが、それを軽減していくことは可能ではないかと思うのです。それが人間関係を豊かにしていくことではないかと思うのです。

永野：先生の間味あふれるお話に引き込まれてしまいました。今日は貴重なお話をどうもありがとうございました。

(インタビュー：2016年5月3日)

「関東地区会」会長改選のお知らせとご案内

日本人間関係学会
関東地区会会長
杉本 太平

新緑の輝く時候となりました。

日本人間関係学会および関東地区会会員の皆様におかれましては、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、永年日本人間関係学会の中核としてご教導いただき、本関東地区会でも会長として多大な寄与をしていただきました佐藤啓子前会長が前年度の総会においての新規定の承認および役員改選での会員の互選により、関東地区会の「顧問」として選任されました。ここに改めまして、佐藤啓子先生の本会設立・発展にご尽力いただきましたことに厚く御礼を申し上げます。

そのことにともない、新会長として私が選出されましたことを皆様にご報告申し上げます。新会長として本会のさらなる興隆・発展をめざして、微力ながら努力いたす所存ですので、皆様のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

関東地区会では、本会独自の定例研修会として、人間関係力を高めるためのスキルトレーニング（HRST）の研修方法を確立し、「人間関係士」資格講座としても質の高い内容のあるものにしてまいりたいと考えています。今年度の年間のメインテーマは「家族を支える人間関係の構築—地域・教育・保育・福祉・医療などの諸領域から—」です。家族に焦点を当てたより良い人間関係の構築のために「人間関係士」など支援者がどのように役割を果たせるのかを追求してまいります。

関東地区会は「人間関係士」に興味・関心のある一般会員でも自由に参加できる開かれた研修会を展開しています。会員の皆様の奮ってご参加を期待しています。関東地区会の年間計画や講座の概要、会員申込みなどは学会HPをご覧ください。

<定例研修会>

平成28年度 研修テーマ：

「家族を支える人間関係の構築—地域・教育・保育・福祉・医療などの諸領域から—」

(1) 奇数月の第2または第3土曜日を原則として年6回開催する予定です。

今年度開催予定日：5月14日・7月9日・9月24日・11月19日・1月21日

3月11日（研修会・総会）※3月以外の研修会は「人間関係士」資格講座ポイント（選択）への振替が可能です。

(2) 研修内容（詳細はその都度HPなどで通知します）

研修講座・研究発表・心理劇・読書会・鑑賞会・講演会など各種研修を企画します。

熊本在住の会員からの地震報告

【熊本地震を体験して】

(香崎智郁代 会員)

2度にわたる震度7の地震は、熊本に大きな被害をもたらしました。阿蘇大橋や熊本城の石垣の崩落など、熊本の象徴といわれるものが次々に壊れ、その様子を見るたびに胸が痛みました。熊本には地震は関係ないと、どこか楽観視していた私は、真夜中に起きた本震時、食器棚からガチャガチャと落ちて割れていくコップやお皿を見続ける以外、何もできませんでした。本震以降も余震が頻繁に起こり、終息時期が見えないという状態は、家族や自分の仕事の状況、子どもの学校など日常生活にいつ戻れるのか、また大きな地震がきたらどうしよう、という様々な不安を引き起こしました。

しかし、そのなかで、心救われることも多くありました。これまでほぼ挨拶程度しか交わしたことの無い隣近所の方から、「お子さんは大丈夫でしたか？食べさせるものはありますか？」という温かい声かけをいただき、大学の同僚の先生方からも水や食料などの支援をいただきました。また、遠く離れた学会関係の先生方からも励ましや気遣いのメールを数多くいただきました。それらは、落ち込み暗くなりがちな私の気持ちを前へと向けさせてくれる大変ありがたいものでした。この場借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。この地震で目に見える風景はだいぶ様変わりしました。しかし、今まで見えなかった人間関

係に見えるものにもしてくれた、と感じています。

【熊本震災 雑感】

(宮崎由紀子 会員)

東日本大震災では、固定電話や携帯の不通が多く、情報が発信・受信について不便が多くみられた。熊本地震では、14日の前震発生時は、私の勤務する学校では、講義終了時間であり、多くの学生が校舎内にいる中で、安否確認や、帰宅方法の確認等に、ライン電話による通話が可能であった。ラインの通信手段は、グループ内での会話や、既読件数による確認が出来るなど、大いに活用した。

地震後は、支援物資や、生活用品販売情報、浴場開放のお知らせ等、まさしく、震災における今の地域密着型の情報が、ライン場に溢れていた。多くの方が、その情報に助かったことは間違いない。しかし、中には、「焼き肉100キロ、子ども、高齢者中心に配給！」「動植物園よりライオンが逃げました」「2時間余震が起きなかったら4時間後に大地震がおきます。」等情報の信憑性が特定できないラインも多く拡散希望で伝わり、不安になった。その中で、庭のバラを送ってきた友のメールに季節が春から初夏に移ったことを感じた私であった。

【熊本地震から考えさせられたこと】

(永野典詞 会員)

2度の熊本地震は、熊本市、益城町、南阿蘇を中心に甚大な被害をもたらしました。私が住む八代市でも震度6強の強い揺れを感じました。八代市では建物が倒壊する被害は少なかったのですが、はじめて命の危険を感じたのも事実です。私は本震の際、自宅2階寝室で寝ていたのですが、ベッドは50cm以上も移動し、1階のピアノも壁から30cm以上もズレていました。当然、食器は割れ、片づける気持ちにもなれず、取りあえず食器を段ボールに詰め、様子を見ることに、いまもそのままです。

さて、今回の震災の特徴を2つ挙げたいと思います。1つ目は、ご存じのように車中泊の多さです。益城町だけでなく、県南八代市でも多くの住民が車中泊をしていました。最近やっと車中泊は少なくなりましたが、県内では、いまだ多くの人々が車中泊をしています。熊本が車社会ということもありますが、いつ来るかわからない地震が怖くて家の中で眠ることができないというのも1つの理由です。気象庁によると、この先2カ月間は震度6以上の地震がくる

可能性があるとして報じています。今かも、明日かも、明後日かも、1年後かも、本当にわからないことって不安を呼び起こすのですね。2つ目は、発達障がい児や子どもがいる家族が避難所に行くことができず、車中泊をしています。震災弱者への対応が後手に回ってしまった、ということです。報道でもご存じかと思いますが、有料老人ホームが立ち入り禁止となったにも関わらず、指定の福祉避難所では一般の避難者で一杯になり、車椅子を利用した高齢者が避難できない事態となり、立ち入り禁止のホームで危険な状況のまま生活せざるを得ない状況になっています。

上述の2つはそれぞれ意味合いは違いますが、1つは、人間の不安への対応の難しさ、2つ目は、緊急時に人間の絆は固いようで、もろさを持っていると言えるのではないのでしょうか。これから復興に向けてそれぞれの取り組みが求められますが、私自身も自分の地域での地道な活動と同時に、専門性を生かした復興支援を行いたいと思っています。

第1回カウンセリング講座に多数の参加



写真は当日のカウンセリング講座の様子です
終了後は二次会まで発展したそうです

2016年6月5日、東京理科大学の森戸記念館で日本人間関係学会主催、NCCP日本カウンセリングカレッジ共催による「カウンセリング講座」が開催されました。講師は小山望理事長と杉山雅宏理事が務められました。参加者が大勢集まり盛況な講座となりました。「楽しく、しかもためになる講座を目指して次回も面白いものを企画します。人間関係における前向きロールを試してください。人間関係がいいふうになりますよ。みなさん、またお会いしましょう」と小山理事長からのメッセージ。遠くは群馬県、静岡県からご参加された方もおられました。

《事務局便り》

- ✓ **会員状況** (6/19 現在)
219名 (内訳：正会員 190名、準会員 27名、賛助会員 1名)
- ✓ **新入会員** (2016/2/16～2016/6/19)
10名 (内訳：正会員 9名、準会員 1名)
- ✓ **新入会員紹介** (順不同・敬称略)
陶山 和樹、目黒 輝美、布施 雅子、上野 栄一、竹村 泰央、大坂 鉄子、春日 郁子、深瀬 友香子、菅原 美佳、大野 賢一、三塚 由佳
- ✓ **退会者** (2016/2/16～2016/6/19)
4名 (内訳：通常退会者 4名、会費未納等による退会者 0名)
- ✓ **会費納入について**
2016年度会費納入から、振込手数料が会員ご負担となります。
2015年度会費まで、学会費振込用紙が赤色(振込手数料を学会負担)としていましたが、2016年度会費より、青色(振込手数料を、振り込み者負担)とさせていただきます。
ご理解とご協力を賜りますよう、なにとぞお願い申し上げます。
- ✓ **法人化について** (報告)
一般社団法人化の手続きを完了致しました。経過は全国大会総会にて報告致します。
学会としての手続きは、全国大会総会で「日本人間関係学会」をいったん解散し、新たに「一般社団法人・日本人間関係学会」を組織することになります。会員の皆様にはご協力をお願いすることになりますが、何卒よろしくお願い申し上げます。
- ✓ **事務局からのお願い**
住所・連絡先・会員身分の変更のある方は至急事務局までご連絡下さい。
Fax : 04-7122-9219 e-mail : jahrijimukyoku@gmail.com

<事務局長の独り言>

最近出会った本の中から、下記の2点を紹介します。

お坊さんが誘う本格派ミステリー2冊

岸田緑溪著

◇ 奥津軽の冥界紀行 (湘南社) ISBN: 978-4-434-17134-5

◇ 奥秩父の金山伝説紀行 (湘南社) ISBN: 978-4-434-21739-5

人生後半に仏門に入って、親鸞に関する書物を2冊発表した後、ミステリー小説を執筆し始めた異色の作家です。

(編集後記)

今年度、学会ニュースを担当いたします九州ルーテル学院大学の永野です。学会ニュースの記事を是非とも会員の皆さまにお寄せ頂きたいと考えております。身近な情報、気になる出来事など、人間関係に関わることなら何でも結構です。どうぞ、ご協力をお願いいたします。(永野)